



一外国語活動巡回指導のお礼 と 29年度に向けて一

各校とも卒業式を控えた3月に入りました。外国語活動巡回指導に関しましては、来週の授業をもって最終となります。

後期兼務校の大沢・八丁平・高砂の3小学校、ならびに本務校海陽におきましては、校長先生をはじめ全ての職員の方々にご大変お世話になりました。一足早くこの紙面をもってお礼申し上げます。

次期学習指導要領における小学校英語の大きな変革を前に、北海道の新たな施策として道内7市で始まった「小学校外国語活動巡回指導教員研修事業」は、室蘭市においては私自身の力不足からどれだけの成果を挙げられたかは分かりませんが、平成29年度以降に向け、少しでも各校において役立つことができましたら幸いです。

さて、28年度巡回指導通信最後は、「29年度に向けて～これだけは～」と題して、移行措置の準備に向けたポイントをまとめてみたいと思います。

29年度に向けて～これだけは～

より具体的な移行のイメージを持ちましょう。(右図参照)

こうして見ると、現場としては様々な視点から総合的に検討・判断・決断を迫られることがわかります。

これは、教務担当者だけ、ましてや学年の判断だけではどうにもなりません。1年間かけて、学校として準備を進めることが大切でしょう。

※ 実際には、29年度3月まで「どうする？どうする？」ともやっていたらいいと思いますが、悩ましい1年になりそうです。

ポイント

- 1) 移行措置期間の学年別実施時数及び年間指導計画
- 2) 3・4年生外国語活動実施及び5・6年生英語教科化に伴う

時数増への対応の仕方(時間的な対応)

例① 年間授業日数を増加させて対応

例② 週当たりの授業時数を増加させて対応

②-1 モジュール(短時間学習)や長時間学習(60分授業など)を設定

②-2 45分授業を1コマ増

例③ 上記①②を併用して対応

3) 日課表の検討

モジュール実施となった場合の日課表における設定箇所・単位時間

※ モジュール実施の場合は、全学年共通で時間枠を設け、5・6年生はその一部を

英語で活用し、他学年は国語・算数・読書等で活用するなど、「学校全体としての時間割」という考え方が求められる。

■「小学校におけるカリキュラム・マネジメントの在り方に関する検討会議 報告書及び別添(平成29年2月14日付 文部科学省)」参照

年度	29	30	31	32
	現行	移行措置		全面实施
29年度 6年生	6年 外国語活動 35h	中1	中2	中3
29年度 5年生	5年 外国語活動 35h	6年 外国語活動 35h	中2	中2
29年度 4年生	4年 現行では実施しない	5年 外国語活動 35h	6年 外国語活動 35h	中1
29年度 3年生	3年 校内での移行措置を検討も(3学期外国語活動実施として)	4年 外国語活動 35h 25h(傾斜例)	5年 教科 70h 55h(傾斜例)	6年 教科 70h 70h
29年度 2年生	2年	3年 外国語活動 35h 15h(傾斜例)	4年 外国語活動 35h 25h(傾斜例)	5年 教科 70h 70h
29年度 1年生	1年	2年	3年 外国語活動 35h 25h(傾斜例)	4年 外国語活動 35h 35h
30年度 1年生		1年	2年	3年 外国語活動 35h 35h

この対応をどうするかが特に悩ましい・・・？！

今後も注目してください！ 室蘭市教育研究所HP

～検索は「室蘭市教育研究所」でOKです。そこから「外国語教育HP」に入ると、右のトップページが出ます。～

- トップページ(更新記録)
- 外国語教育お役立ち資料
- 市内小学校の英語実践
 - ・ 教室英語
 - ・ 絵本の活用
 - ・ 単語や表現の学習
 - ・ アルファベットの音
 - ・ 他教科と関連した授業 ほか
- 中学校の英語実践
- 室蘭市の国際理解教育推進事業

